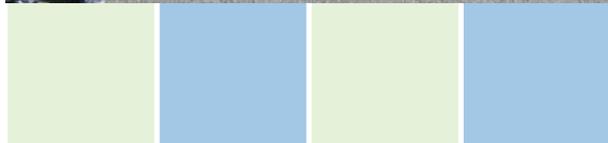
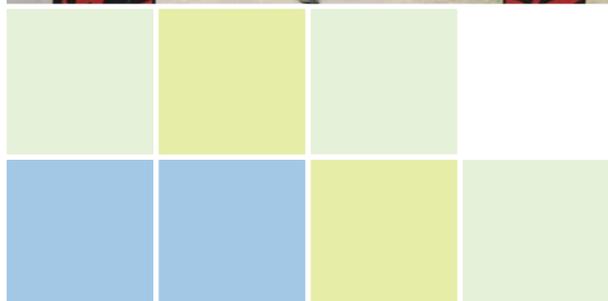
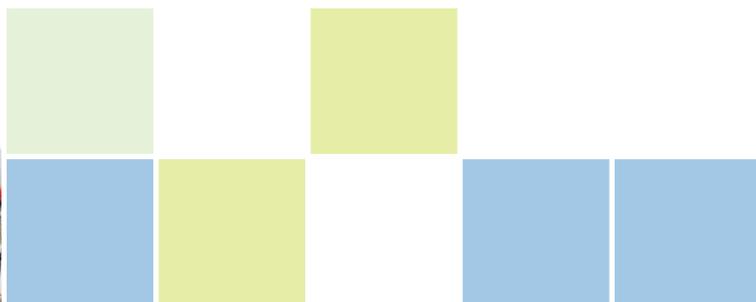


平成23年度 文部科学白書

東日本大震災からの復旧・復興
～人づくりから始まる創造的復興～



文部科学省

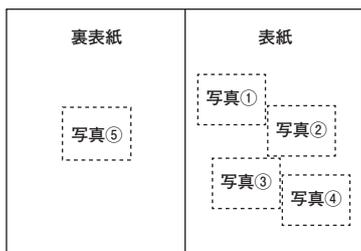
MINISTRY OF EDUCATION,
CULTURE, SPORTS,
SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN

文部科学省シンボルマーク

文部科学省シンボルマークは「羅針盤」をモチーフとしています。教育、科学技術・学術、スポーツ、文化の振興を通じて、希望に満ちた未来を目指す、文部科学省の役割を表しています。上部の円は進むべき方向を象徴し、その使命を見失うことなく、誠意と熱意をもって任務に専心する姿勢を示しています。下部の円の中央から放射状に広がる直線は、社会に開かれた文部科学省の姿勢を表現しています。同時に、親しみやすい簡潔なデザインからは、人、地球など、様々なイメージへと自由に連想を広げることができます。

色彩は日本人に古来なじまれてきた青色を基調として、「瑠璃（るり）色」と「空色」を使用しました。「瑠璃色」は強い意志、品格と知性、「空色」は誠意と未来への広がりという意味しています。

このシンボルマークは、国民の皆様とのコミュニケーションを深めていくための取組の一環として、平成20年1月の新庁舎への移転を機会に制定されたものです。文部科学省は、このマークに込められた意味を忘れることなく、任務に取り組んでまいります。



写真①：震災から半年後、被災した校舎に、輪太鼓（タイヤ太鼓）による鎮魂と感謝の演奏を捧げる市立雄勝中学校の全校生徒（宮城県石巻市）
[写真提供：石巻市立雄勝中学校]

写真②：震災後の市内の人物・風景を写した写真に、色々な言葉を詰めながら、ポスター制作に取り組む市立唐丹中学校の生徒（岩手県釜石市）
[写真提供：復興支援メディア隊]

写真③：駅前で、被災地の小学校のために募金活動に取り組む市立鴨居小学校の児童（神奈川県横浜市）[写真提供：横浜市立鴨居小学校]

写真④：ヤングアメリカンズの指導を受け、英語の歌や踊りを交えたショーを行う私立久之浜第一小学校の児童たち（福島県いわき市）
[写真提供：NPO法人じぶん未来クラブ]

写真⑤：宮城県農業高等学校の文化祭（復興祭）にて、東京都立拝島高等学校の生徒制作による巨大貼り絵（テーマ：「それでも世界は輝く」、作品：ゴッホ「種まく人」）の公開展示を実現し、手を取り合い喜び合う両校の生徒（宮城県名取市）[写真提供：東京都立拝島高等学校]